

日蓮大聖人御書全集

ほうねんだいざいごしよ

法然大罪御書

新版  
2140  
S  
2141

ほうねんだいぎいごしよ

# 法然大罪御書

あき きよう どくじゆとう く けごん ほうどう ほんにやとう 入

かの浅き経の読誦等の句に華嚴・方等・般若等をいるる

ふしぎ のちはちねん だいほう ほつけねほん だいにちきよう

だにも不思議なるに、後八年の大法たる法華涅槃・大日経

とう つう い じようほんじようしよう おうじよう ごう

等をば通じ入れて上品上生の往生の業とするだにも

ふしぎ しょうみようねんぶつ たい ほけきようとう

不思議なるに、あまつさえ称名念仏に対して「法華経等の

どくじゆ 実 おうじよう もう にほんこくじゆう じようげ

読誦はじちには往生せず」なんと申して、日本国中の上下

ばんにん ごじゆうよねん ほうぼう もの むけんだいじよう お

万人を五十余年がほど、謗法の者となして無間大城に墮と

つみ 思 ほうねん ききよう 捧

しぬる罪は、いくらほどとかおぼす。まず法然が亀鏡にささ

そうかんぎよう ほんがん もん こぎやく ひぼうしようほう

げたりし双観経の本願の文には「ただ五逆と誹謗正法と

のぞ

ほうぞう びく

誠

予

のみを除く」と法蔵比丘いましめをかねてなし、

しょうじきしやほうべん

ほけきよう

ひとしん

きよう

正直捨方便の法華経には「もし人信ぜずして、この経を

きぼう

ないし

ひと

みようじゆう

あびごく

い

しる

毀謗せば乃至その人は命終して、阿鼻獄に入らん」と記し

置

おかれたり。